

外国人就労者向け日本語教育の現状

事例① インターカルト日本語学校 企業の高度人材対象の日本語教育

目的

□日本語力不問で国内外で採用された人材が、日本人と共に業務を遂行するにあたって必要な日本語能力とコミュニケーション力を身に付けるために、勤務開始半年前から学習機会を提供

教育内容

□日本本社での配属後2年間で日本語能力試験N1に合格することを目標。各々の日本語レベルに合わせた教材を使って教育を実施

授業時間

□採用後の内定期間:150時間、6カ月間
入社後:週1回2時間、1年間

体制、人員配置

□国内外での内定期間:日本語教師 各1名
入社後:プログラムコーディネーター1名
各クラスに日本語教師 各1名

定員

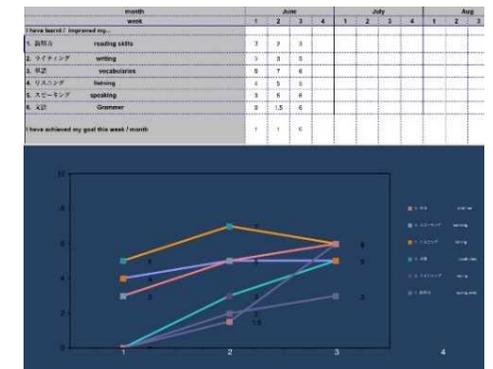
□採用人数:6名

施設設備

□内定期間:採用地の日本語教育機関
(当校の海外提携校)
入社後:当校及び依頼元企業(教師派遣)

評価の方法

□依頼元企業との間で、毎週定期的なフィードバック、受講生・教師それぞれによる自己評価、進捗データの交換、改善に関する協議を実施



■自己評価シートと成績評価表 1

事例② インターカルト日本語学校 留学生(大学生)対象の就職支援(県事業)

目的

□ 県内の大学に在籍する留学生で、県内もしくは日本国内での就職を希望する者のために、ビジネス日本語の学習機会を提供

教育内容

□ 6か月のビジネス日本語能力テスト(BJT)対策を主とするe-ラーニングと、その期間中、当校からの派遣講師によるスクーリング。BJT協会作の問題搭載の当校e-ラーニングシステムを使って実施

授業時間

□ e-ラーニング: 60時間相当、3カ月間
スクーリング: 期間中3回実施、1回3時間

体制、人員配置

□ e-ラーニング: 日本語コーディネーター教師
1名・システム担当者1名・県の担当職員1名
スクーリング: 日本語教師1名

定員

□ 県が大学を通して募集 80名

施設設備

□ e-ラーニング: 受講者各自自宅で受講
スクーリング: 県の国際交流協会の施設

評価の方法

□ e-ラーニングの進捗確認をシステムの管理機能により当校が行い、その結果を県担当者
と共有。適宜、学習者にフィードバック。期中の
模擬テスト、最終のBJT本テストによって評価



■ スクーリングの様子とe-ラーニング教材 2

事例③ インターカルト日本語学校 技能実習生対象の日本語教育

目的

□ 技能実習生が、日常生活に必要な日本語、業務の日本語、日本人従業員との円滑なコミュニケーション力を習得するために、学習機会を提供

教育内容

□ 日常生活に必要な日本語は、主に市販のテキストを使って実施。また、業務の日本語は、作業手順や専門用語の理解等、依頼元企業のニーズに合わせ、オリジナルのテキストを作成して実施

授業時間

□ 企業①：週1回90分
企業②：月2回実施、1回2時間

体制、人員配置

□ 日本語教師1名

定員

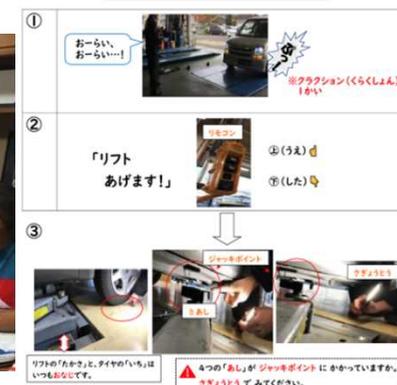
□ 企業①：10名(ベトナム、ミャンマー)
企業②：4名(インドネシア)

施設設備

□ 依頼元企業への出張レッスン

評価の方法

□ 依頼元企業との間で、月に1回、定期的なフィードバックを実施。また、適宜、学習者にフィードバック。月末、その月の学習内容を基に作成したテストで評価。



■ 授業の様子と「タイヤ交換作業」オリジナル教材

事例④ 株式会社オリジネーター 高度外国人材対象 日本語研修

目的

- 将来の中核人材として活躍を期待される若手外国人材(新入社員含む)を対象に、業務遂行のために必要な日本語運用力を強化

教育内容

- 日本語力中級～上級者が対象。上長および外国人社員から課題をヒアリングの上
 - ①ビジネス会話
 - ②ビジネスコミュニケーション
 - ③ビジネスライティング
 - ④専門用語
 を実施

授業時間

- プライベート 週2回50分×60回(10か月間)
- グループ 3時間/回×2回
- ライティング 15課題

体制、人員配置

- プログラム統括コーディネーター1名
日本語教師13名、企業窓口担当1名

定員

- 13名(新入社員5名、2年、3年目社員8名)

施設設備

- 当該企業本社(対面)
受講者自宅もしくは企業の各拠点(オンライン)

評価の方法

- 実施前、中間、終了時に口頭および筆記テストを実施。毎授業ごとにレポートを企業に提出、および月1回企業への定期フィードバック。

実施日	氏名	口頭レベルチェック結果	口述評価	ライティング評価
2021年5月25日	●●●●	中国出身、3年前来日。大学を卒業して(N1取得)、3年前に入社。大学では英語で受講、日本語に理解が不十分。 一般的なやりとりは日本語で問題ない。 文法には詳しくない。「書きたり(書いたり)」「聞いたことば」のような基本的な活用や接続。また「四川」は正しいものがあるが、このような不自然な表現。「会社はいつの日か」は下手です。敬語は使えない。不完全な文が見られる。 発音面では、日本語に似ていないような発音の音が聞こえる。外国人と区別がつかない。 新語を使った電話の会話とは全く様子が異なっており、ウチの言い分け、決まり文句などを覚えている。タスク達成がよやくできたり、(IT)中部長は覚えているように見える。	6.5	B+
2021年5月25日	●●●●	インドネシア出身、7年前来日。大学を卒業して、3年前に入社(2年間は海外勤務)。大学で日本語のクラスを受講。入社前は必死で勉強していた。 一般的なやりとりでは問題なくできる。発音にスピードがあり自然に話せることができる。 文法面では、「使ひなんで」「やさいなん」など、基本的な接続詞に誤りが見られる。また、丁寧な「です」が頻りに使われている。 電話会話はあまり聞いていないとのこと。ウチの関係の個人「席から離れています」のような不自然な表現も見られた。	7.0	B

実施日	実施時間	終了時刻	講師	受講者	評価
2021/5/12	10:00	10:50	講師	受講者	●●●

評価表とレッスンレポート

事例⑤ しまね国際センター(SIC) 訪問日本語コース〈企業訪問型〉

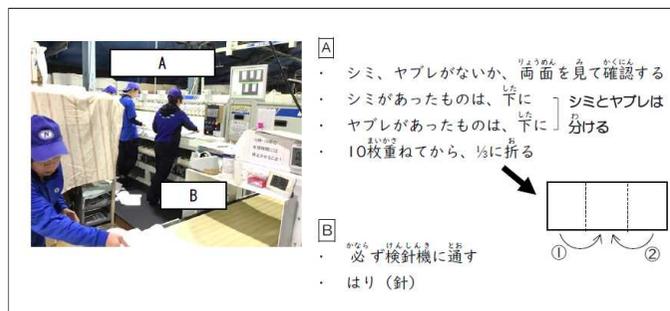
■ 目的

□ 職場でのコミュニケーションを活性化させ、リネンサプライ業に必要な日本語教育を学んだ上で、仕事の効率化や安全な作業、チームワークの向上につなげる。

■ 教育内容

□ ①日常生活での日本語②業務に必要な日本語(いずれもオリジナル教材を使用)

※②は、依頼元の企業より、必要な日本語(指示の言葉、専門用語など)のリスト等 راもらい、それに合わせた教材を作成。



■ 体制、人員配置

□ コーディネーター... 1名
日本語教師... 2名

■ 授業時間

□ 90分×12回

■ 定員

□ 10名(ベトナム技能実習生、フィリピン新日系)

■ 施設設備

□ 依頼元企業の施設と公的な施設を併用(教師派遣)

■ 評価の方法

□ 初回と最終回にレベル判定テストを実施

■ 職場の画像を見ながら業務に必要な日本語を学んでいる様子

